

八尾市文化財調査報告20
昭和63年度公共事業

八尾市内遺跡昭和63年度発掘調査報告書Ⅱ

1989.3

八尾市教育委員会



はしがき

八尾市は河内平野の中央部に位置し、古代より灘波と大和を結ぶ交通の要地であります。従って、市域には多数の遺跡が存在し、これらは古代史を解明する上で貴重な手がかりを我々に与えてくれます。しかし、近年の社会経済的変動による大阪都市圏への人口集中は耕地の宅地化を促がし、各種の土木建築工事なってあらわれており、その為、土中に埋もれている先人が残していく貴重な遺産の破壊散逸を招くこととなりました。

その様な状況に対し、当教育委員会は文化財保護の立場から開発により消滅がさけられない遺跡の調査を実施し、その概況を報告する次第であります。

最後にあたり、発掘調査開始から本報告に収録されるまでの間、多くの方々の御指導、御協力をいただいた事に対し深く感謝申し上げ、併せてこの概報が関係者の皆さんに活用されることを願って止みません。

平成元年三月

八尾市教育委員会

教育長 西谷信次

例　　言

1. 本書は、昭和63年度に八尾市内で実施した公共事業に伴う埋蔵文化財調査の概要報告書である。
2. 発掘調査は八尾市教育委員会文化財室（室長 森田康夫）が原図者に協力を求めて実施した。調査は文化財室職員米田敏幸、近江俊秀（嘱託）が担当した。
3. 本書は当該年度に実施した埋蔵文化財調査を巻末の一覧表に記載し、これらのうち成果のあった5遺跡、9調査地の報告を収録した。
4. 調査に際しては、岡田清一、徳谷尚子、横山妙子、大場都子、山田正和、中野久仁子、佐々木研、川上京子、中谷聖子の参加を得た。
5. 本書の作成は、米田、近江が分担執筆し、編集は近江が行なった。また、遺物実測は徳谷、岡田が行ないトレースは近江が行なった。
6. 本調査期間中及び整理期間中には、下記の諸氏の御教示を得た。記して感謝したい。

(財)八尾市文化財調査研究会 高萩千秋、原田昌則

大阪府教育委員会 福田英人

(敬称略)

本文目次

1. 中田遺跡(63-020)の調査	1
2. 小阪合遺跡(62-020)の調査	4
3. 久宝寺遺跡(63-195)の調査	6
4. 久宝寺遺跡(63-269)の調査	9
5. 田井中遺跡(63-297)の調査	15
6. 小阪合遺跡(63-133)の調査	17
7. 小阪合遺跡(63-202)の調査	20
8. 水越遺跡(63-196)の調査	22
9. 水越遺跡(63-354)の調査	24
10. 恩智遺跡(63-399)の調査	26

挿図目次

第1図 調査地周辺図(S=1/10000)	1
第2図 調査区設定図(S=1/400)	2
第3図 西グリット平面図(S=1/40)	2
第4図 西グリット上層断面図(S=1/40)	3
第5図 基本層序模式図(S=1/40)	3
第6図 調査地周辺図(S=1/10000)	4
第7図 調査区設定図(S=1/400)	5
第8図 基本層序模式図(S=1/40)	5
第9図 調査地周辺図(S=1/10000)	6
第10図 調査区設定図(S=1/1200)	7
第11図 Cグリット第14層出土遺物(S=1/4)	7
第12図 各グリット土層断面図(S=1/40)	8
第13図 調査地周辺図(S=1/24000)	9
第14図 調査区設定図(S=1/4000)	10
第15図 第5グリット平面図(S=1/80)	11

第16図	第6グリット模式図(S=1/40)	11
第17図	出土遺物実測図(S=1/4)	11
第18図	基本層序模式図(S=1/80)	13
第19図	基本層序模式図(S=1/80)	14
第20図	調査地周辺図(S=1/10000)	15
第21図	調査区設定図(S=1/1200)	16
第22図	基本層序模式図(S=1/80)	16
第23図	調査地周辺図(S=1/10000)	17
第24図	調査区設定図(S=1/600)	18
第25図	調査区平面図(S=1/200)	18
第26図	出土遺物実測図(S=1/4)	18
第27図	基本層序模式図(S=1/40)	19
第28図	調査地周辺図(S=1/10000)	20
第29図	出土遺物実測図(S=1/4)	21
第30図	北グリット北縁断面図(S=1/40)	21
第31図	調査区設定図(S=1/200)	21
第32図	調査地周辺図(S=1/10000)	22
第33図	調査区設定図(S=1/400)	23
第34図	各グリット土層断面図(S=1/40)	23
第35図	調査地周辺図(S=1/10000)	24
第36図	第2層出土土器(S=1/4)	25
第37図	調査区設定図(S=1/800)	25
第38図	基本層序模式図(S=1/20)	25
第39図	調査地周辺図(S=1/5000)	26
第40図	調査区設定図(S=1/500)	27
第41図	調査地平面図(S=1/40)	27
第42図	基本層序模式図(S=1/40)	27
第43図	出土遺物実測図(S=1/4)	28

図 版 目 次

- 図版 1 中田遺跡(63-020)
- 図版 2 中田遺跡(63-020)・小阪合遺跡(62-393)
- 図版 3 久宝寺遺跡(63-269)
- 図版 4 久宝寺遺跡(63-269)
- 図版 5 久宝寺遺跡 2 次(63-269)
- 図版 6 久宝寺遺跡 2 次(63-269)
- 図版 7 小阪合遺跡(63-133)
- 図版 8 久宝寺遺跡(63-245)・(63-296)出土遺物
- 図版 9 久宝寺遺跡(63-269)・小阪合遺跡(63-133)出土遺物
- 図版10 小阪合遺跡(63-133)・(63-202)出土遺物
- 図版11 水越遺跡(63-345)出土遺物

1. 中田遺跡(63-020)の調査

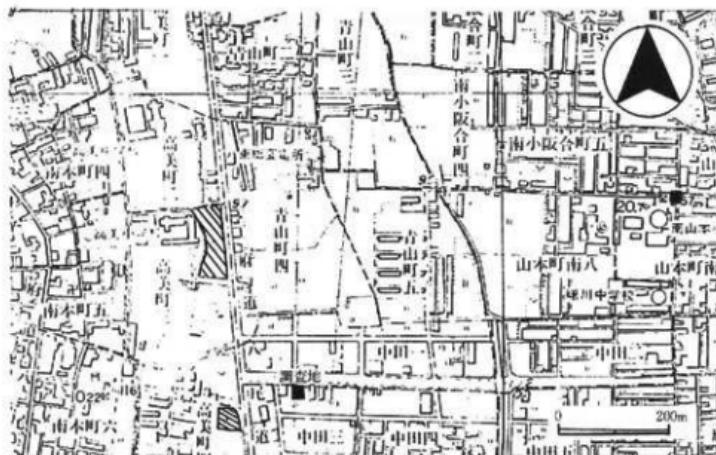
調査地 八尾市中田3丁目37番地

調査期間 昭和63年6月4日

1. 調査概要

中田遺跡は、河内平野中央部に位置する、弥生時代から鎌倉時代にかけての複合遺跡である。八尾市中田3丁目37番地内において関西電力により鉄塔建て替えを計画している旨の届出にもとづき発掘調査をおこなった。本調査は、建替部分に2箇所のグリットを設定し、G L-140mまで重機により盛土、旧耕土を除去したのち、以下人力掘削によっておこなった。

西グリット G L-200cmで厚さ40cmの包含層を掘りこむ深さ15cm、幅30cmの溝1条を検出した。溝埋土は暗青灰色粘土で、遺物は土器の細片をわずかに含むのみであった。この面で涌水が著しいため、以下は重機により下層の確認をおこなった結果溝の底とほぼ同じレベルで、厚さ30cmの青灰色粘土を確認し、その土層内より土釜等中世の遺物を少量検出した。この層直下に灰褐色砂層が堆積していたが、遺物は全くなかった。

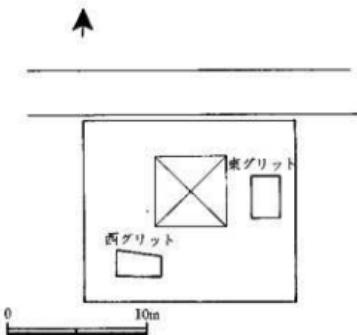


第1図 調査地周辺図 (1/10,000)

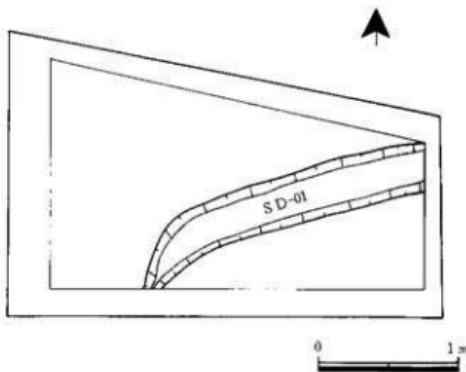
東グリット GL-180cmで中世の整地面らしき土層を確認したため、精査をおこなったが、遺構、遺物は検出されなかった。またこの層の直下は、灰色細砂層であり、湧水が著しいため作業を中止した。

2.まとめ

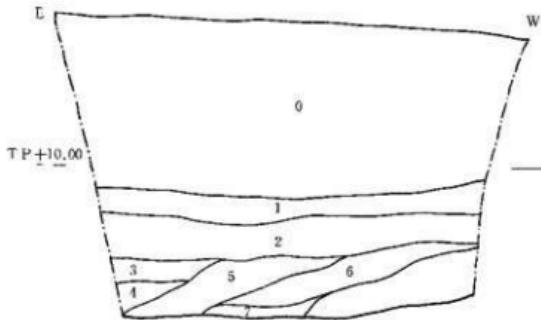
本調査地から、中世の小溝と多少の遺物を出土したのみであった。本調査地の西方では、中世の建物、井戸等が検出され、中世の集落であったことが窺われるが、本調査地はそれに近接する中世の耕作地であったことが窺われる。(近江)



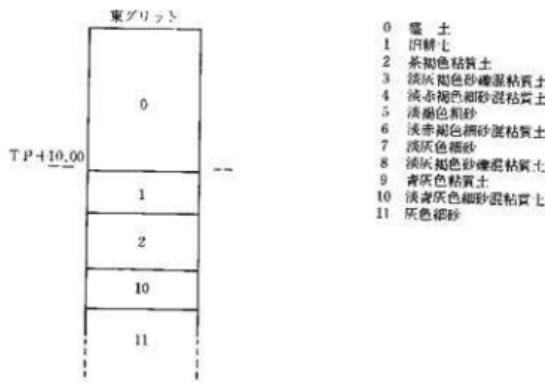
第2図 調査区設定図 (1/400)



第3図 西グリット平面図 (1/40)



第4図 西グリット土層断面図 (1/40)



第5図 基本層序模式図 (1/40)

2. 小阪合遺跡(62-393)の調査

調査地 八尾市小阪合町1丁目地内

調査期間 昭和63年6月6日

1. 調査概要

小阪合遺跡は、河内平野中央部に位置する弥生時代から近世の複合遺跡である。小阪合町1丁目地内において関西電力により鉄塔建て替えを計画している旨の届出にもとづき発掘調査をおこなった。

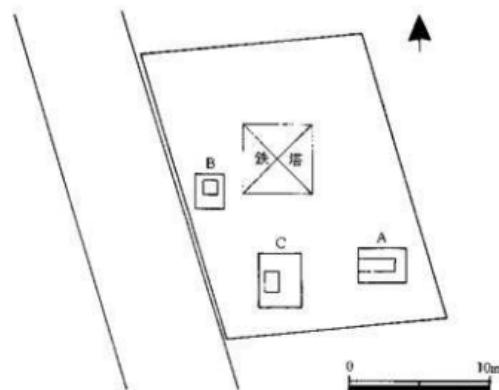
本調査は、建替部分に3箇所のグリットを設定し、GL-140cmまで重機により盛土、旧耕土を除去したのち、以下人力掘削をおこなった。調査地の基本層序は、現地表下1.30mまで盛土で、以下10cm-20cmの旧耕土の下に第1層淡褐色粘質土層、第2層暗灰色粘土層、第3層灰色細砂層の順に堆積していたが、遺構は検出されなかった。遺物は、第2、第3グリットにおいて、第2層より、近世の土器片がわずかに出土し、第3層より古墳時代の土器片を数点出土したのみである。



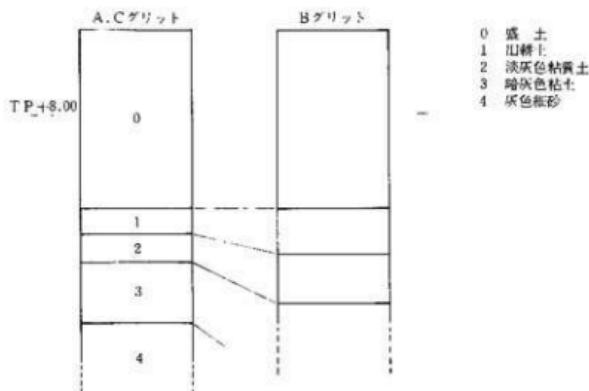
第6図 調査地周辺図 (1/10,000)

2. まとめ

本調査地では、遺構は検出されず、若干の遺物の出土がみられたのみであった。本調査地の南方では、弥生時代～近世の集落跡が検出されているが、それらの集落の範囲は、本調査地まで広がらないものと考えられる。(近江)



第7図 調査区設定図 (1/400)



第8図 基本層序模式図 (1/40)

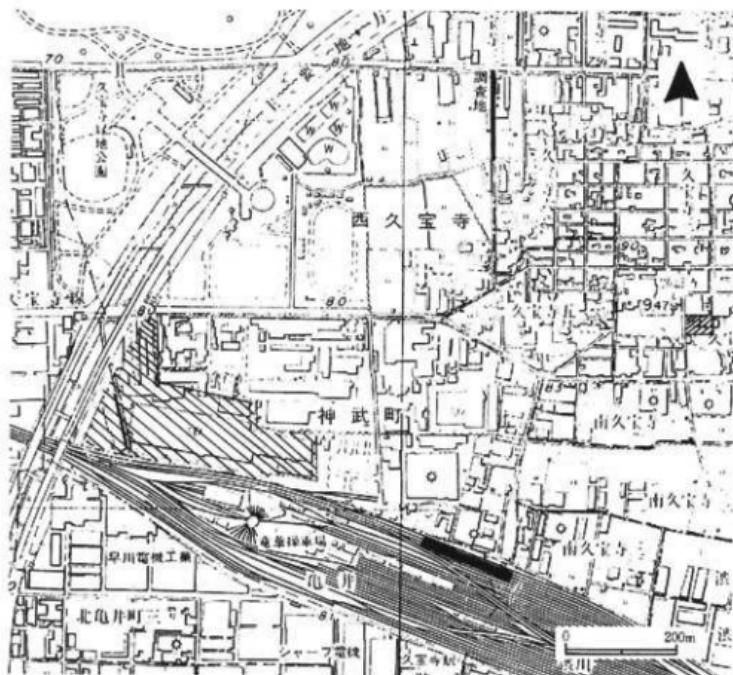
3. 久宝寺遺跡(63-195)の調査

調査地 久宝寺6丁目路上

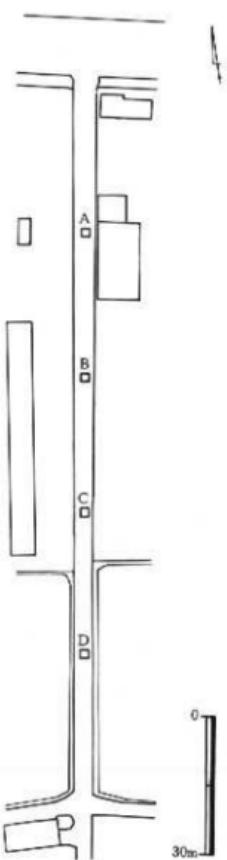
調査期間 昭和63年8月30日・10月11日・11月7日

1. 調查概要

本調査は、下水道新設に伴って実施した遺構確認調査である。調査は、諸々の事情により昼間に実施することができずやむをえず夜間3度に渡って土層の確認、遺物の採集を目的として行なった。



第9回 調査地周辺図 (1/10,000)



第10図 調査区設定図 (1/12,000)

1次調査 本調査は、下水管敷設道路上に 2×2 m のグリットを 30 m 間隔で 4 箇所設定し、地表下 1 m までを機械掘削し以下 1 m を人力で精査した。

調査地の基本層序は、第12図に示した通りで、厚さ 0.6 ~ 1.9 m の盛土以下 2 層黄褐色砂質土、3 層緑灰色シルト、5 層青灰色粘土、7 層暗青灰色粘土、8 層黄褐色粗砂の堆積が認められた。

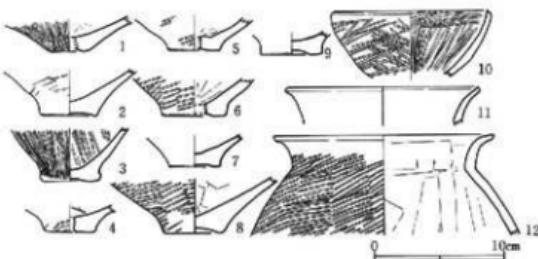
遺物は各グリットから瓦等の中近世のものは出土したが、それを廻るものは C グリットで認められた 14 層黒灰色粘土内より出土したのみである。時期は、弥生後期から庄内に至るもので量は多い。

2次調査 前回の A・B グリット間の下水工事に立会い遺物の有無を確認した結果、地表下 2 ~ 2.2 m で認めた暗灰色礫混じり粘土内より若干の遺物の出土をみた。

3次調査 C グリット付近の工事に立会った。包含層は、C グリットより南 5 m 付近で最も厚く遺物量が多くなることが確認できた。

2. 出土遺物

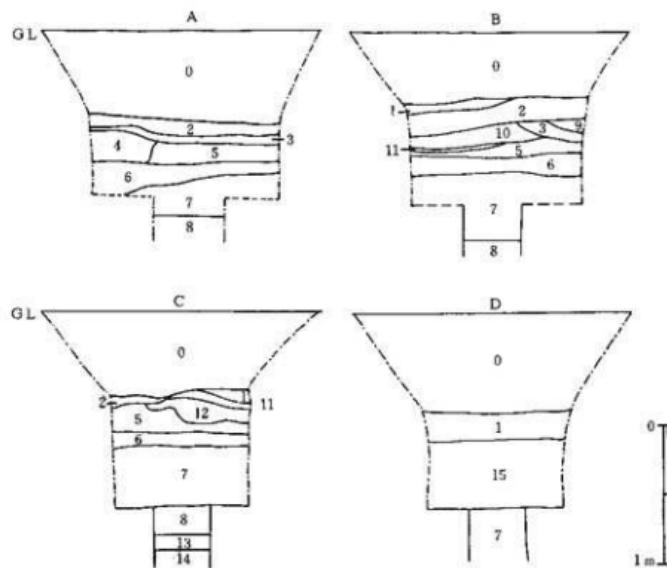
1 ~ 9 は、壺、甕の底部であるがいずれもドーナツ底で突出度は小さい。10 は高环の坏部と思われ内外面ともヘラミガキを施す。11 は庄内甕で端部をつまみ上げる。12 は V 様式甕かもしくは V 様式系甕で、外面をタタキ内面は板状工具で丁寧にならる。



第11図
C グリット
第14層出土遺物 (1/4)

3.まとめ

今回の調査では夜間という悪条件のため遺跡の実態を十分とらえることはできなかった。しかし、当該地に弥生後期から庄内の集落が存在する可能性は極めて高く、久宝寺遺跡の北端を考える上でも興味深い成果であるといえよう。(近江)



第12図 各グリット土層断面図 (1/40)

0 盛土	9 暗褐色粘土
1 旧耕土	10 赤褐色細砂
2 黄褐色砂質土	11 灰色細砂
3 緑灰色シルト	12 暗灰色粘土
4 黄灰色細砂	13 青灰色シルト
5 青灰色粘土	14 黒灰色粘土
6 喰青褐色粘土	15 青灰色砂質粘土
7 喰青灰色粘土	
8 黄褐色粗砂 (浸水層)	

4. 久宝寺遺跡(63-269)の調査

調査地 亀井及び渋川

調査期間 1次 昭和63年8月30日

2次 昭和63年11月25日～28日・12月1日

1次調査

1. 調査概要

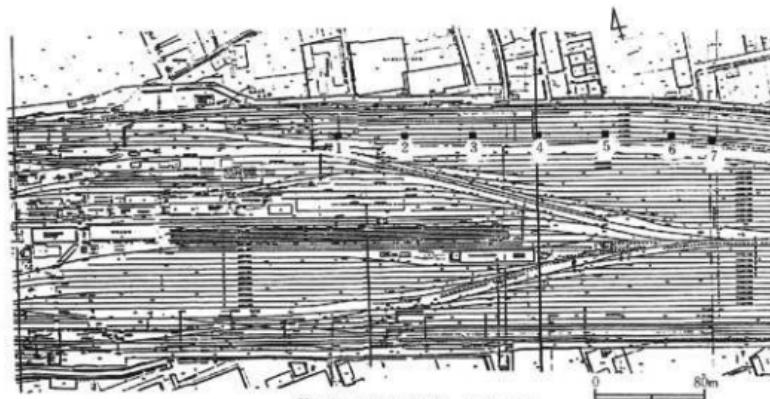
本調査は、駅舎新設に伴って実施した遺構確認調査である。調査地西方では、中央環状に伴う調査により弥生から古墳時代の遺跡の存在が明らかにされており、また東側には渋川廃寺跡が存在するが、当該地付近は不明な点が多かった。

本調査は、 5×5 mのグリッドを50m間隔で6箇所設定し、地表下5mまでを機械と人力を併用して掘削を行った。

調査地の基本層序は、第18図に示した通りで、盛土以下2層青灰色粘土、3層黄褐色微砂混じり粘質土、4層黄褐色粘質土、11層暗灰色細砂、12層灰色微砂、13層灰色粗砂の堆積が認められ、2層は近世の遺物を包含し、3層は中世の遺物を包含するとともに近世の遺構面とな



第13図 調査地周辺図 (1/24,000)



第14図 調査区設定図 (1/4,000)

ると思われ、4層は古墳時代の遺物を包含するとともに中世の遺構面となる可能性が強く、また11~12層は弥生後期から古墳時代の遺物を包含する。

第1グリット 今回の調査地の中で最も西端に位置し、層序も他のグリットと全くことなる。遺構は検出できなかったが、多くの遺物の出土を見た。

第2グリット 第1グリットと同様に遺構は検出できなかったが、遺物の量は多い。また、盛土を除去するとすぐに2層の堆積が認められることから、この付近は、凹凸の激しい土地であったことがうかがわれる。

第3グリット このグリットにおいても遺構は検出できなかったが、遺物の量は多い。

第4グリット さきの3つのグリット同様に遺構こそ検出されなかつたが、遺物量は多い。

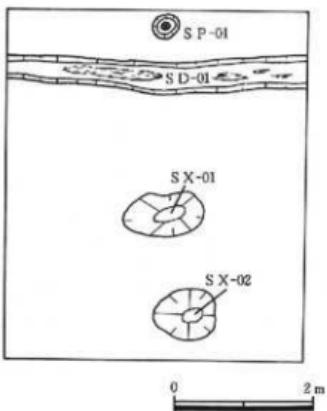
第5グリット 2層を掘りこむ近世の溝、Pitを検出した。(第15図)

S D - 0 1 幅0.4m深さ0.1mの小溝で、溝底、側面には木片が認められた。このことからこの溝は等々かの水利施設であったものとおもわれる。

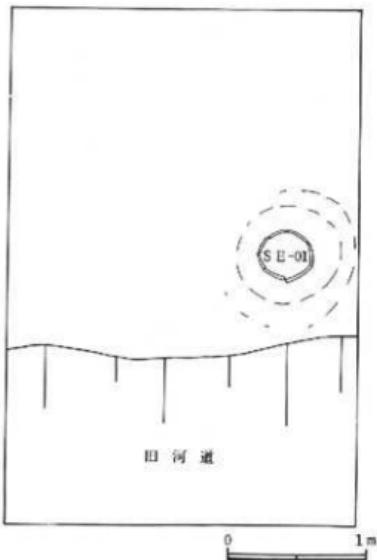
Pit 1 直径0.4m、深さ0.3mのほぼ円形のPitで埋土は青灰色粘質土である。

また、第5層よりほぼ完形の須恵器壺が出土しており、これも何等かの遺構に伴っていたものと思われる。

第6グリット 機械により表土及び2層を除去したところグリット中央南側より近世の瓦棒の井戸1基を検出した。今回の調査では十分な記録が残せないと判断したため、本発掘に備え黄色砂をもって埋めもどした。(第16図)

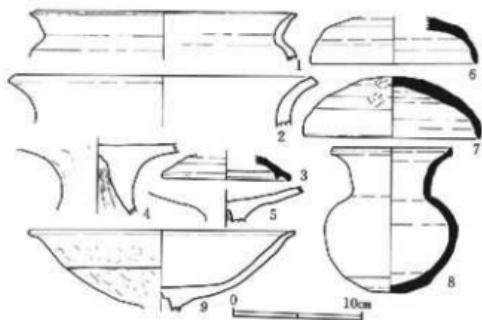


第15図 第5グリット平面図 (1/80)



第16図 第6グリット模式図 (1/40)

第7グリット 第6グリットで下層確認が行なえなかったために、30 m 東に新たに 5×5 m のグリットを設定した。4層を除去するとすぐに13層の堆積が認められた。この層は湧水が著しいため上げ土からの遺物採集を行ったところ、弥生から古墳時代の遺物の出土を認めその量は他のグリットよりも多い。



第17図 出土遺物実測図 (1/4)

- 第2グリット (1)
- 第3グリット (4)
- 第4グリット (2, 3)
- 第5グリット (5~8)
- 第7グリット (9)

2. まとめ

今回の調査では、近世の遺構と多量の遺物を検出した。また、各グリットの層位が、ほぼ一定していることも認められた。これらの成果から、今回の調査地には、検出された近世の遺構の他に、中世、古墳時代の遺構が存在する可能性が高く、また、厚さこそわからなかったが、灰色粗砂からも遺物の出土がみられること、さらに同様の砂層が中央環状に伴う調査でも認められており、その下層で弥生時代中期の遺構が検出されていることから、今回の調査地でも灰色粗砂の下に弥生時代中期の遺構が存在する可能性がある。

2次調査

1. 調査概要

今回の調査は、1次調査で認められた砂層の厚さ及び砂層下の状況を確認し、本発掘の基礎データーの作成をおこなう為実施した。

調査は、前回の2、4、7グリットに12mの鋼矢板を打設し、前回の掘削深度まで機械掘削し以下、機械と人力を併用して掘り進めた。

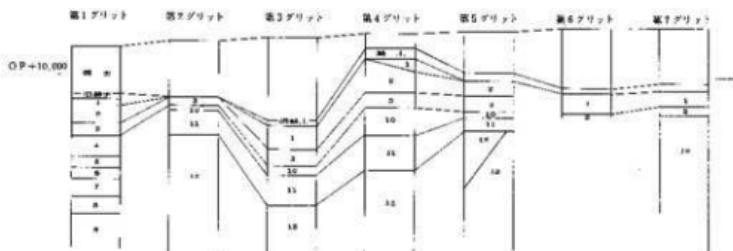
第2グリット G L - 7 mまで掘削を行なったが、砂層の堆積が厚く以下の状況は、確認出来なかった。その事から、当グリット部分は、自然河川であったと思われる。

第4グリット 約G L - 4 mで暗茶灰色粘土層の堆積を認め、以下は、粘土と砂が交互に堆積しておりこれらは、何度かの洪水によって形成されたものとおもわれる。

第7グリット G L - 5 mで青灰色微砂混じりシルトの堆積をみとめた。以下は、第4グリットと同様の堆積状況を示す。

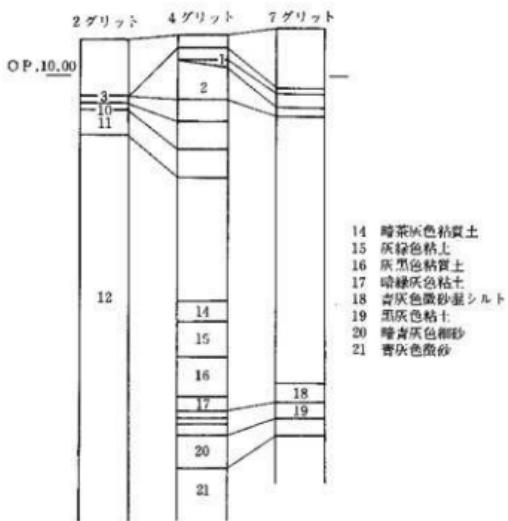
2. まとめ

今回の調査の結果、調査地西側と東側とでは、砂層の厚さが異なることが認められた。また、砂層下では、遺構は検出できなかった。しかし、砂層内からの遺物の量は多く、また遺物の時期は、弥生～古墳時代のものが多く、弥生時代の土器は摩耗が著しいのに対し、古墳時代の土器は摩耗が少ないとから、この付近に古墳時代の聚落の存在が考えられる。(近江)



第18図 基本層序模式図 (1 / 80)

- 1 青灰色粘質土
- 2 黄褐色微砂砾じり粘質土
- 3 黄灰色粘質土
- 4 青灰色シルト
- 5 青灰色粘質シルト
- 6 晴褐色粘質土(植物層)
- 7 青灰色微砂
- 8 灰色微砂
- 9 茶灰色粘質土(植物層)
- 10 灰灰色微砂
- 11 灰色微砂
- 12 灰色粗砂
- 13 青灰色粘土



第19図 基本層序模式図 (1/80)

5. 田井中遺跡(63-297)の調査

調査地 空港2丁目12番地

調査期間 昭和63年10月25日

1. 調査概要

田井中遺跡は、八尾市田井中、志紀西、空港1丁目に所在する弥生時代～古墳時代の集落遺跡である。当該地は、この遺跡の東端部付近に位置する。ここにおいて、大阪府警察本部より格納庫を建築する旨の通知に基づき、 $3\text{m} \times 3\text{m}$ の調査区を2箇所設定して、機械掘削による試掘を実施し、遺構の有無を確認した。(第21図)

調査の層序は、地表下0.4mの盛土を除去した後、1.8mまでの間は、シルトまたは微砂が堆積する土層となる。それ以外は、粘土またはレキ混じり粘土が2.5m付近まで厚く堆積している。南側の調査区では、この粘土層の上層付近に古墳時代の遺物を濃密に包含する土層を確認した。(第22図)

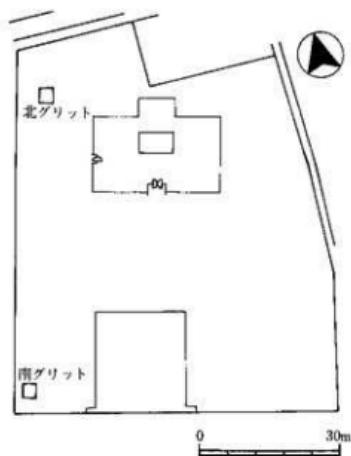
出土遺物は、ほとんどが古墳時代に属する土器片で、須恵器甕および环片、土師器片多数がある。

2.まとめ

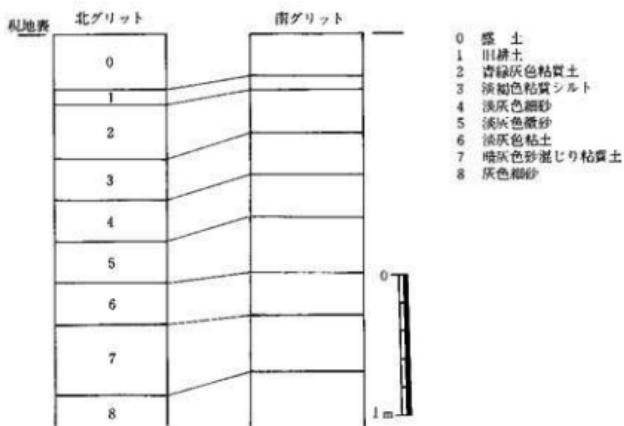


第20図 調査地周辺図 (1/10,000)

今回の調査地は、田井中遺跡の東端部分ではあるが、レキ混じりの包含層の状況は、整地土または、人為的な堆積状況を示しており、ここに造構の存在は確実であると予測できる。造構の保存に留意する必要がある。(米田)



第21図 調査区設定図 (1/1,200)



第22図 基本層序模式図 (1/40)

6. 小阪合遺跡(63-133)の調査

調査地 南小阪合町1丁目先

調査期間 昭和63年11月14日

1. 調査概要

本調査は、下水道立抗掘削に伴って実施した遺構確認調査である。調査地に西接する地点の府道拡幅に伴う調査により弥生～中世の遺構が検出されていることから、本調査地にもそれらの遺構が広がるものと思われた。

調査は、立抗掘削に並行して実施し、地表下1.3mまでを機械掘削し以下を人力で2mまで精査した。

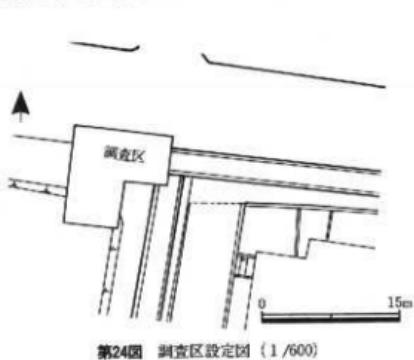
調査地の基本層序は、第27図に示した通りで、厚さ1.3mの盛土以下1層暗褐色粘土、2層暗茶灰色礫混じり粘質土、3層淡褐色微砂の堆積が認められ、1～2層は古墳時代から中世の遺物を包含しており、また3層上面で時期不明の土塙1基を検出した。

2. 検出遺構

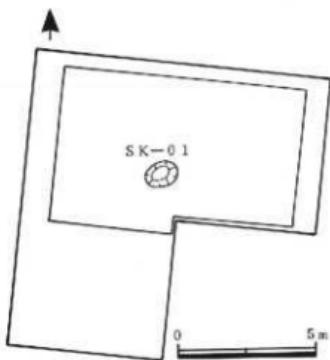


第23図 調査地周辺図 (1/10,000)

グリット中央南側で検出した直径約0.9m、深さ約0.4mのほぼ円形の土壇で暗青灰色粘土を埋土とする。遺物は出土しなかった。



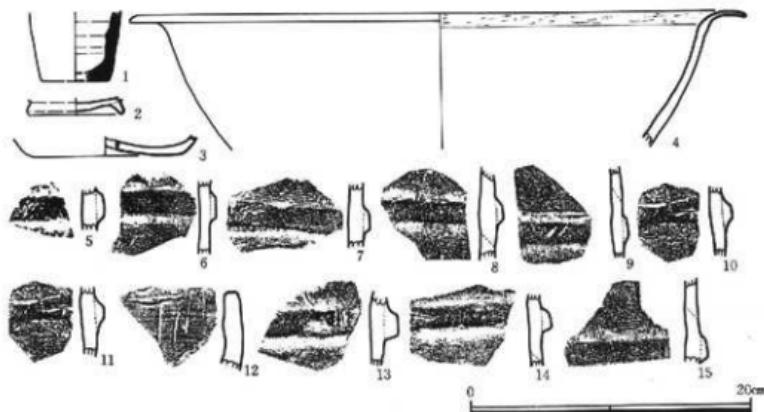
第24図 調査区設定図 (1 / 600)



第25図 調査地平面図 (1 / 200)

3. 出土遺物

遺物は、多量であったが全て包含層からの出土であり、かつ、細片である。時期的には、主に古墳時代と中世のものによってしめられる。
5~15は埴輪片であるがいずれも表面の摩耗が著しく調整などは不明であるが、無黒班のものであると思われ、タガの形状から6世紀の物と考えられる。



第26図 出土遺物実測図 (1 / 4)

4.まとめ

従来、小阪合遺跡はその中心を若草町、青山町におく弥生から近世に至る複合遺跡であることが知られていたがその東への広がりは不明であった。しかし、今回の調査で遺構及び包含層を認めた事から、当該地付近まで古墳時代から中世の集落が広がる事が明らかになった。(近江)



- 0 盛土
1 噴灰褐色粘土
2 噴灰灰色礫混じり粘質土
3 泥鰌色微砂

第27図 基本層序模式図 (1/40)

7. 小阪合遺跡(63-202)の調査

調査地 山本南8丁目先路上

調査期間 昭和63年12月2日

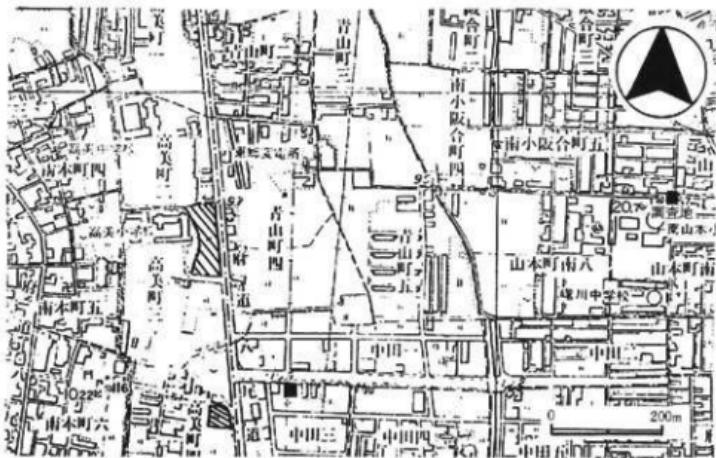
1. 調査概要

八尾市下水道部が南山本小学校の東北角の路上で、公共下水道の立坑掘削工事に伴い立会調査したところ、地表より1.7mで弥生時代後期の遺物包含層を検出したため、そこより約60cmを手掘りにより掘削し、遺物の取上げと断面観察を実施した。

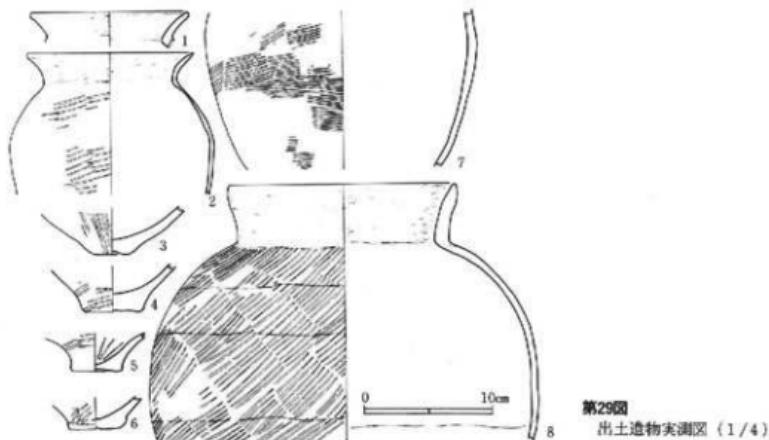
断面観察の結果、遺物は標高7.7m以下7.3m迄に所在する暗灰色砂レキ混り粘質土内に集積しており、この土層は、青灰色粘土をベースとする落ち込み状を呈していることが判った。遺物を包含するのはこの土層のみで、それ以下は、淡青灰色粘土が厚く続き、無遺物であった。

2. 出土遺物

遺物は細片が多く、全て弥生時後期末に属する土器片で、壺型土器が圧倒的に多い。



第28図 調査地周辺図 (1/10,000)

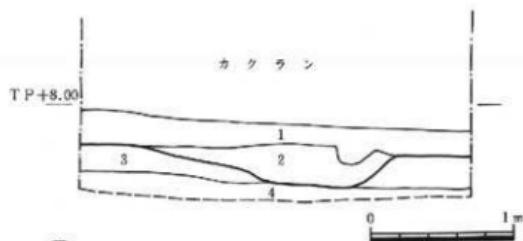
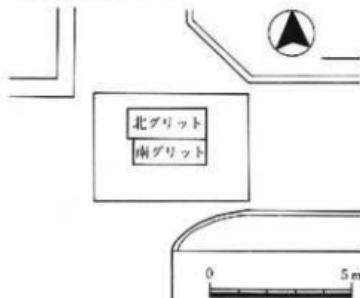


第29図
出土造物実測図 (1/4)

3.まとめ

当該地は、小阪合遺跡の東限に当たるが、南山本小学校内においても同時期の遺物を検出しておあり、この付近に同時期の遺構群の存在が予測でき、遺跡の範囲を知る上で重要な調査成果を得た。(米田)

第31図
調査区設定図 (1/200)



第30図 北グリット北壁断面図 (1/40)

- 1. 淡灰色シルト
- 2. 喙灰色砂礫混粘土
- 3. 青灰色粘土
- 4. 深青灰色粘土

8. 水越遺跡(63-196)の調査

調査地 八尾市神立2丁目地内

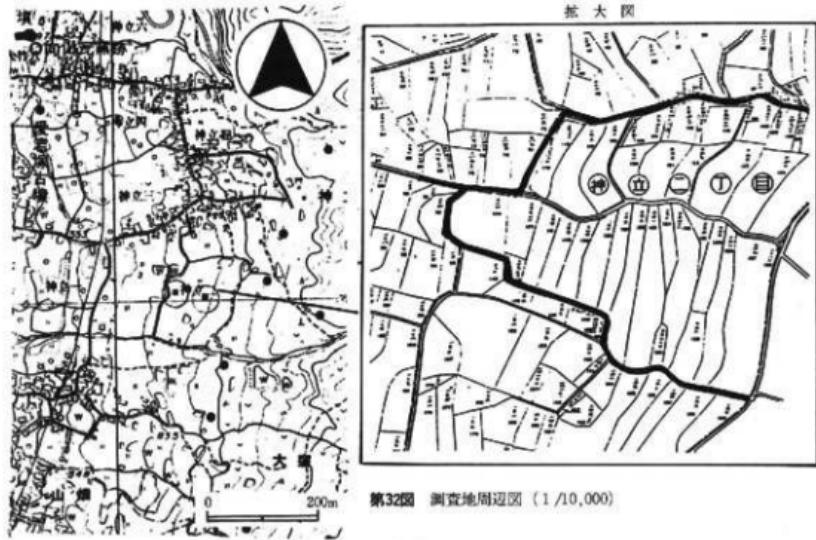
調査期間 昭和63年12月12日

1. 調査概要

八尾市下水道部の水路整備工事に伴って、工事施工箇所のうち、水路新設部分2箇所において、遺構の有無を確認するため、 $1\text{m} \times 2\text{m}$ のトレンチを設定して、手掘りによる調査を実施した。

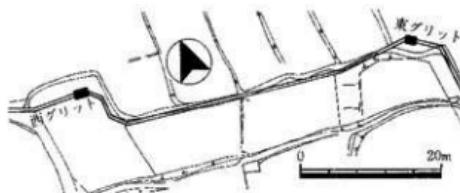
西グリット 標高80mに位置する水田において、深さ1.2mまでの掘削を実施した。各土層共粘質土で粘性が強く、ここがもともと谷状の湿地であったことが判る。遺物包含層としては、表土下0.5m以下に存在する暗灰色砂泥粘土層内に中世の土師器片を含んでいるを確認した。

東グリット 標高85.5mに立地する水田において、深さ0.6mまでの掘削を実施した。耕土以下は砂質土となり、0.6mで砂礫で構成される地山に達する。遺構や遺物包含層を示す土層の堆積は認めることはできなかった。

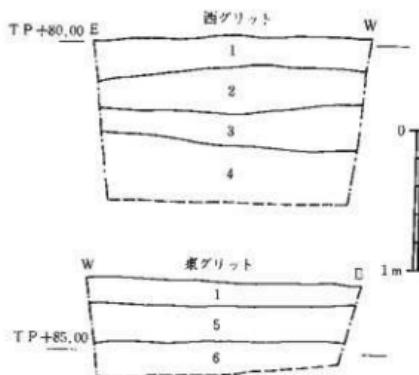


2.まとめ

当調査では、遺構の存在を確認することができなかった。しかし少量であるが、中世前期に逆のほることができる遺物を検出したことは、この山麓高位付近の開発の時期を考察する上で手懸とすることができるよう。(米田)



第33図 洪査区設定図 (1/400)



第34図 各グリット土層断面図 (1/40)

1. 耕 土
2. 米灰色礫砂混粘質土
3. 緑灰色礫砂混砂質土
4. 哈灰色礫混粘土
5. 黄褐色砂質土
6. 茶褐色砂礫土

9. 水越遺跡(63-354)の調査

調査地 水越2丁目117

調査期間 昭和63年12月27日

1. 調査概要

本調査は、体育館改築に伴って実施した遺構確認調査である。調査地周辺は、玉作り遺跡として知られ当該地でも玉作りに伴う何等かの遺構の存在が想定された。

調査は、既存体育館北側に1.5×6mのトレンチを設定し地表下0.5mまでを機械掘削し以下0.7mを人力で精査した。

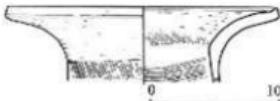
調査地の基本層序は、第38図に示した通りで、厚さ0.2mの盛土以下1層暗褐色砂質土、2層淡褐色細砂、4層暗青灰色粘土の堆積が認められたが、トレンチ東側では2層下に3層暗褐色礫砂層が存在する。

2. 検出遺構

盛土を除去するとトレンチ西側で近世の溝と思われる埋土が青灰色粘土で深さ約1mの落込みを認めた。また北側断面2層内より庄内期のものと思われる広口壺及び花崗岩の切り石等の出土を認めた。これらは、2層をベースとする何等かの遺構に伴うものと思われるが、その形状は不明である。



第35図 調査地周辺図 (1/10,000)



第36図 第2層出土土器 (1/4)

3. 出土遺物

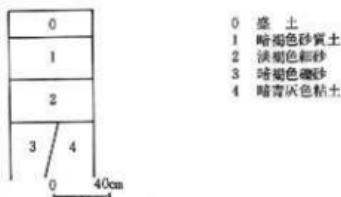
1は2層内出土の広口壺である。体部から口縁部へスムースに移行する形態のものと思われ、端部をつまみ上げる。口径は20.6cmを計る。

4.まとめ

当該地は、高安中学校建設の際に削平されたものとは思われ残念ながら玉作り関係の遺構の存在は認められなかった。しかし、庄内期の遺構が確認されたことからそれ以前の集落の存在が明らかとなり、その実態を把握するために面的な調査を実施する必要がある。(近江)



第37図 調査区設定図 (1/800)



第38図 基本層序模式図 (1/20)

10. 恩智遺跡(63-399)の調査

調査地 恩智中町3丁目66番地

調査期間 平成元年1月18・19日

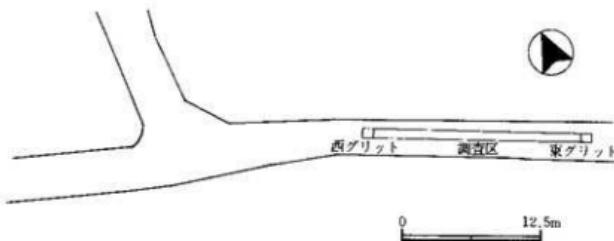
1. 調査概要

恩智遺跡は、縄文・弥生時代の集落遺跡として有名で、特に天王社周辺は大阪府の指定史跡となっている。ここから南に隣接する道路において、八尾市下水道部が管渠を築造することになった為、道路敷内で天王社に近い側より東へ幅1.2m、長さ8mの範囲を調査区として調査を実施した。



第39図 調査地周辺図 (1/5,000)

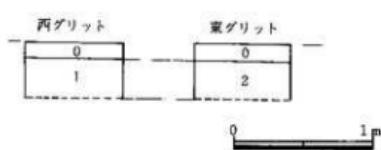
調査区内では、現地表下10cmのところから約30cmの範囲内に存在する暗黒灰色砂質土の中に、弥生時代中期の遺物を多数含んでいるのを検出した。試掘の結果、調査区より東側には、包含層は確認できず黄褐色の微砂質土が堆積する。弥生時代の遺構は、調査区西端部で径30cmのピットを検出した。暗黒灰褐色砂質の下は黄褐色レキ混じり砂質土であり、遺構面が存在しているものと考えられる。出土した遺物には、弥生時代中期の壺、鉢、高杯、甕の破片多数の他、石包丁やサヌカイトの剝片などがある。



第40図 調査区設定図 (1/500)



第41図 調査地平面図 (1/40)

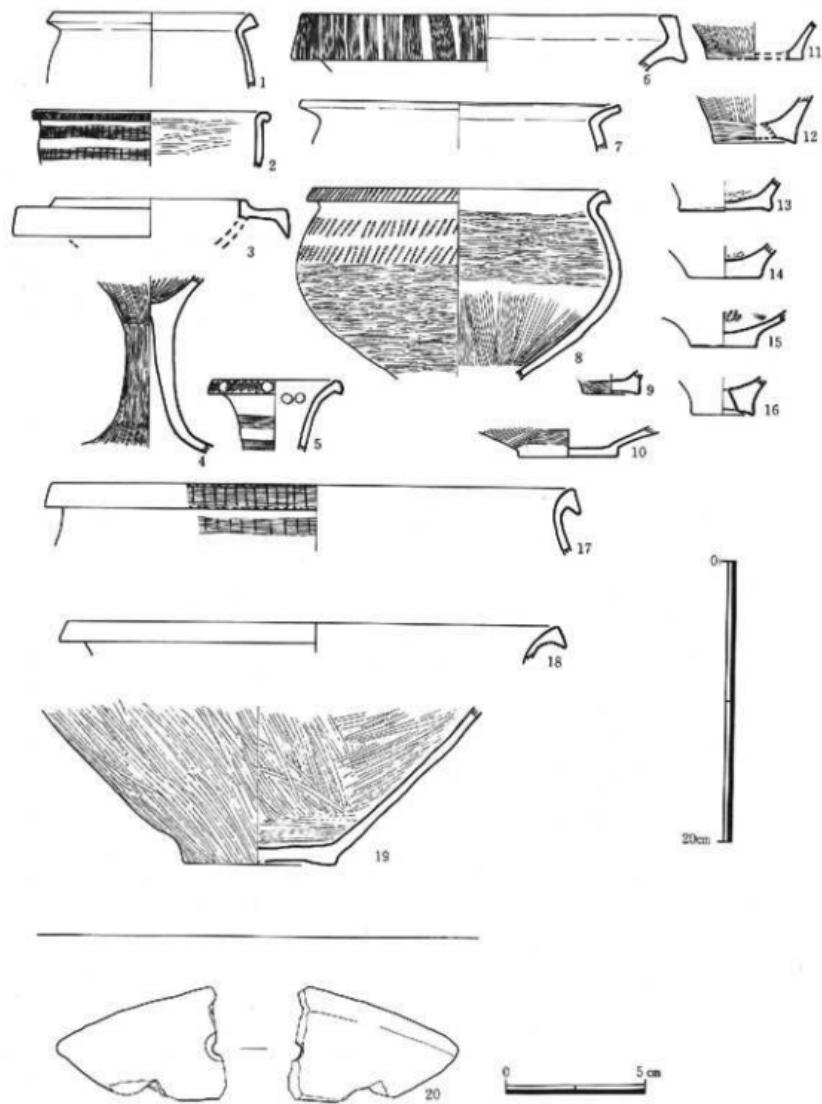


第42図 基本層序模式図 (1/40)

- 0 掘 収
- 1 暗黒灰色砂質土（包含層）
- 2 黄茶色微砂

2.まとめ

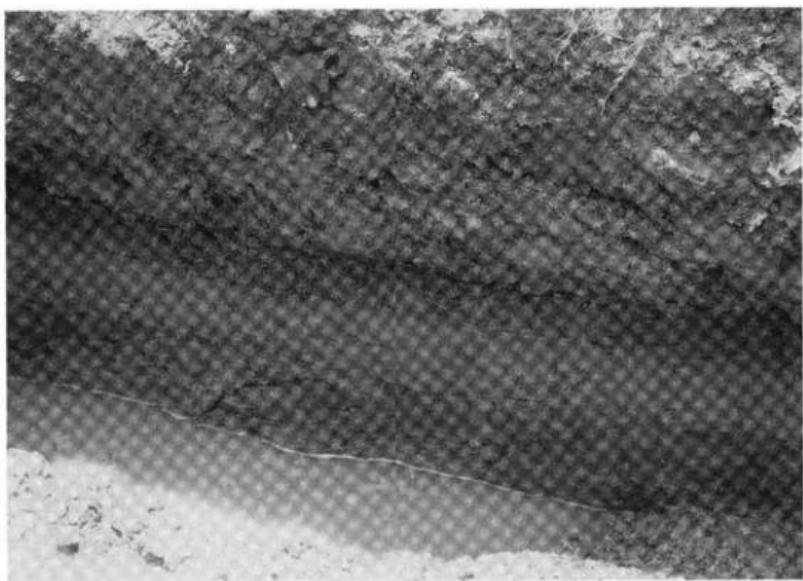
本調査では、弥生時代中期の遺構、遺物の存在を確認した。これらの遺構は、当遺跡における弥生時代の集落域の東限を考える上で重要な資料となるであろう。(米田)



第43圖 出土遺物實測圖 (1 / 4)
(20 石磨丁, S=1/2)



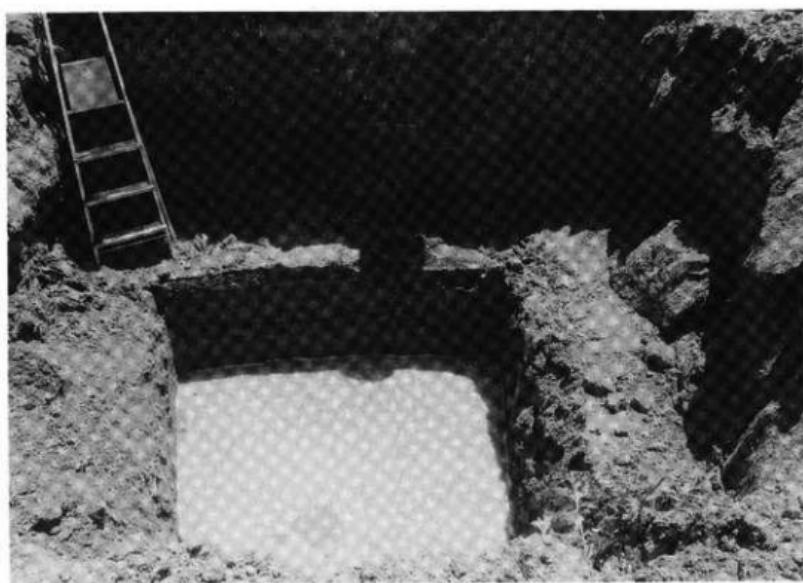
A グリット



A グリット



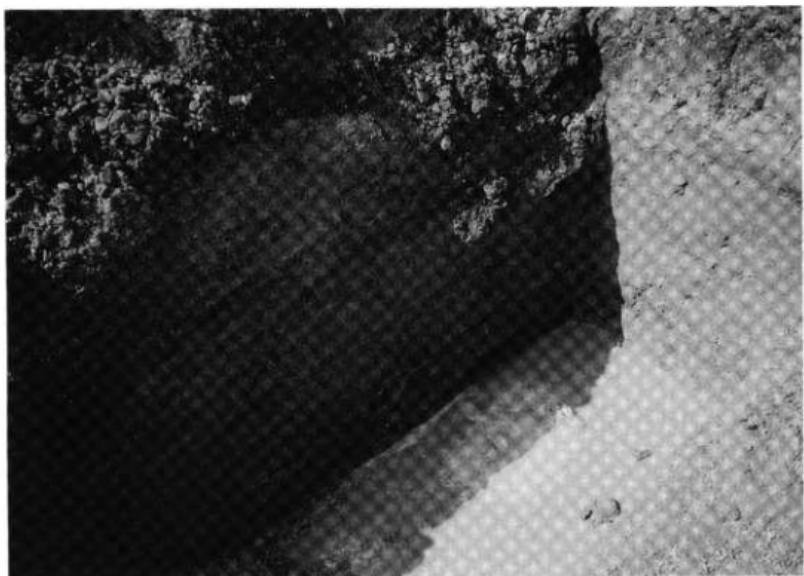
中田 B グリット



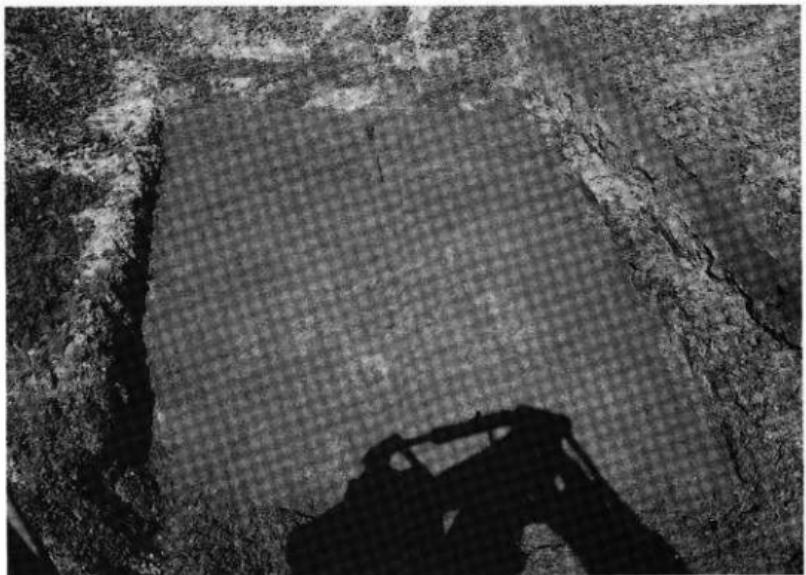
小阪合 A グリット



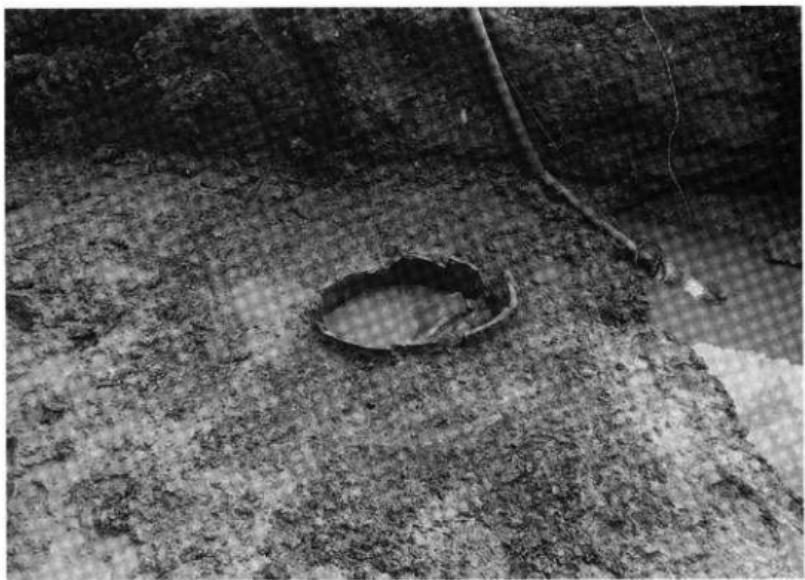
3 グリット



4 グリット



5 グリット



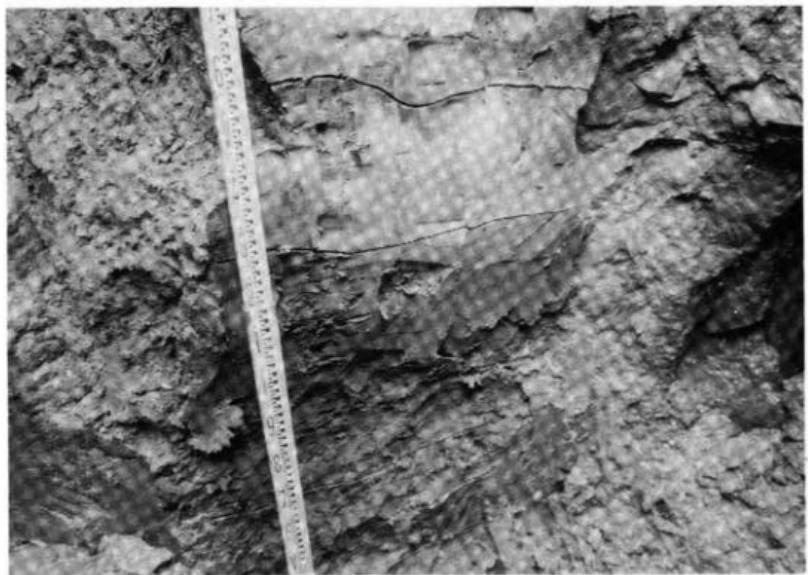
6 グリット



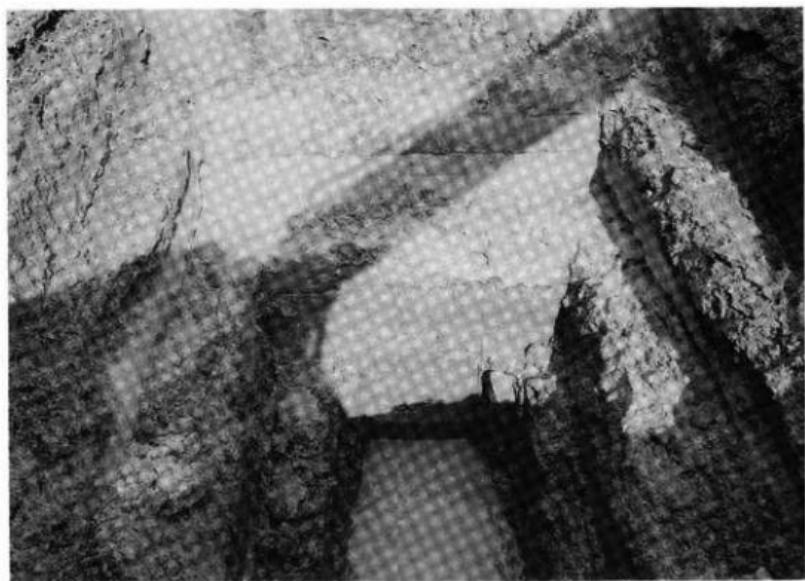
5 グリッド

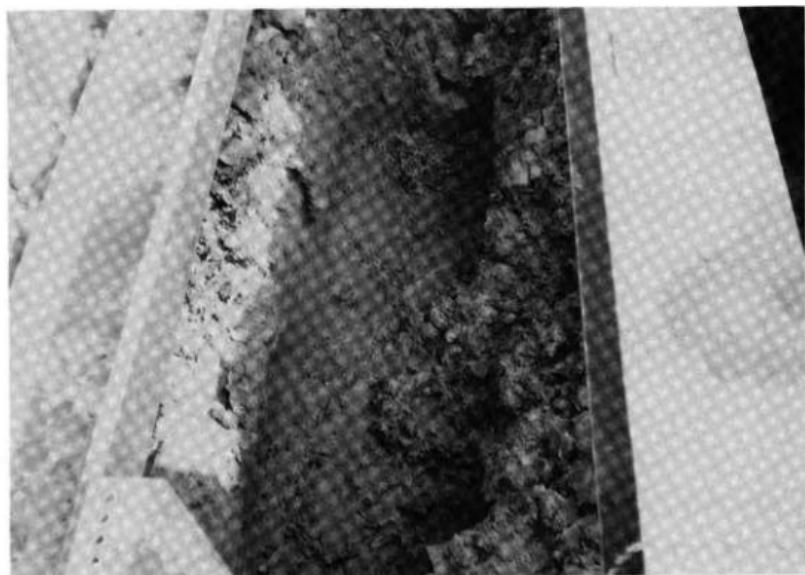
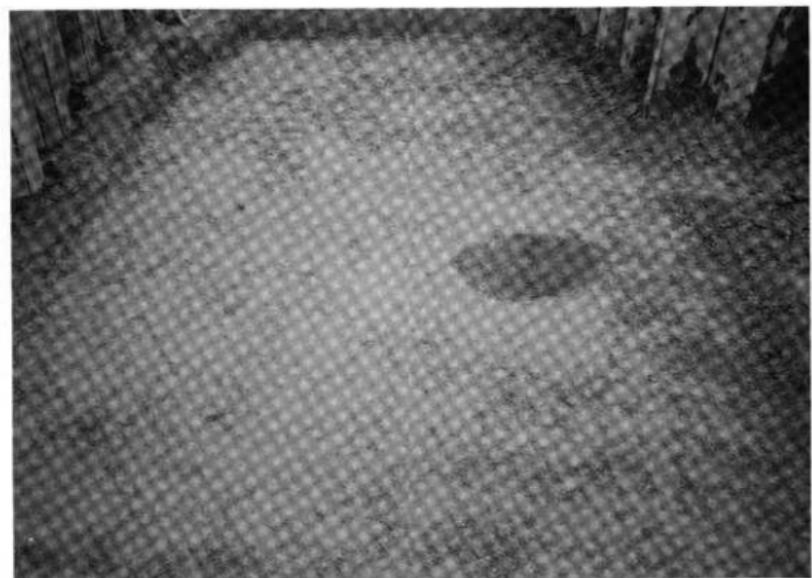


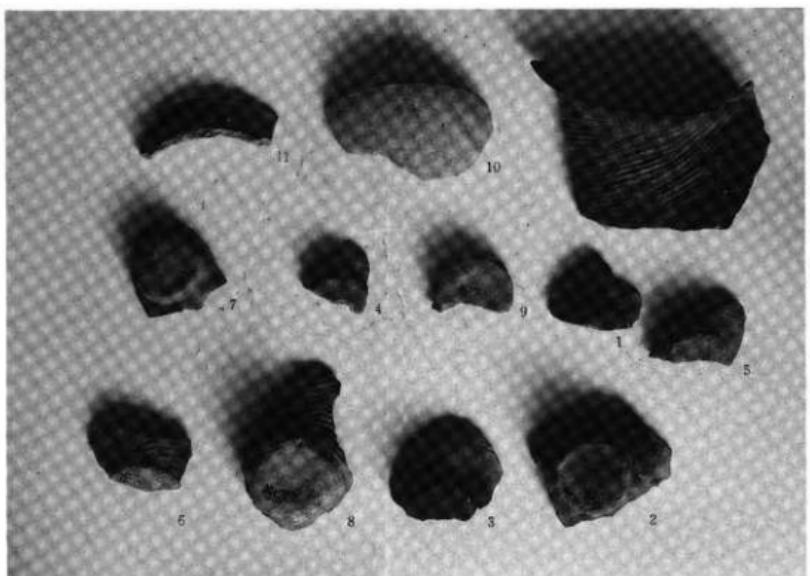
5 グリッド



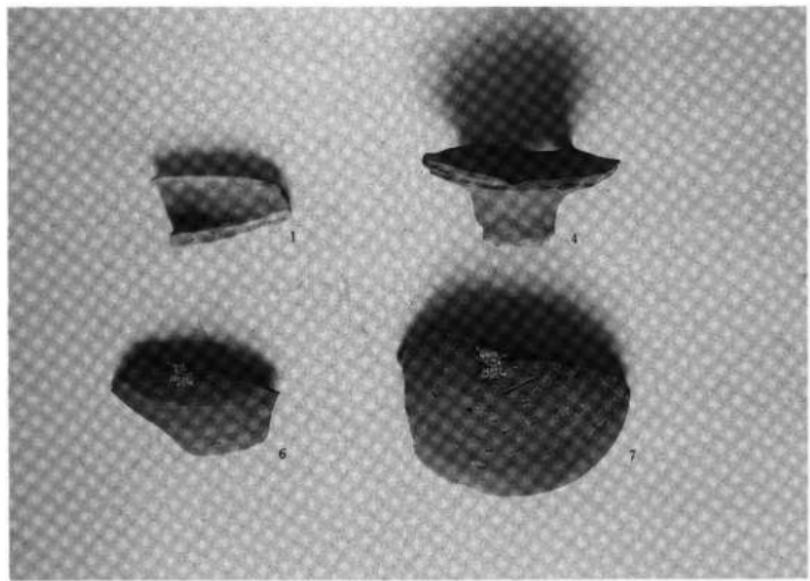
7 グリット



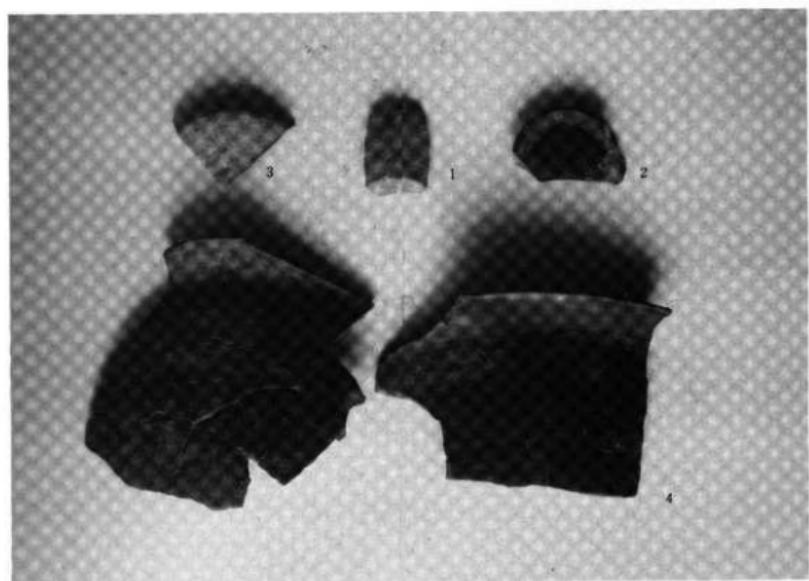


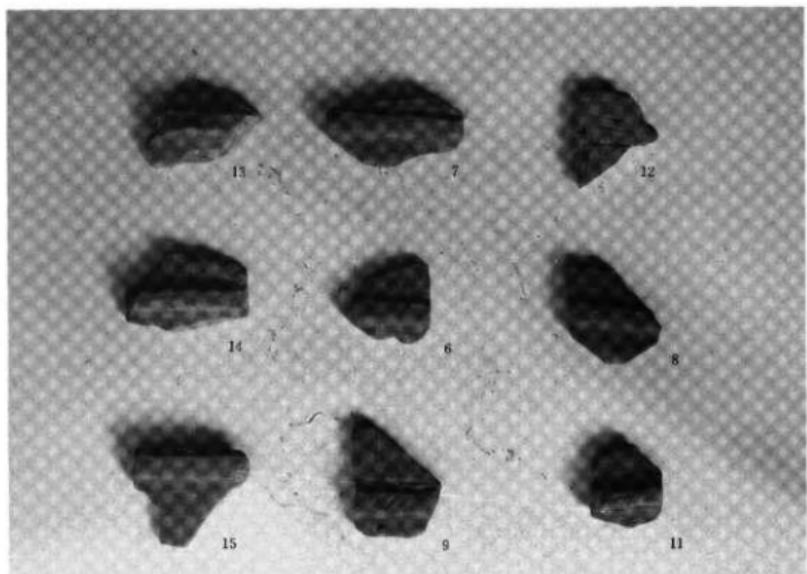


63—245



63—296



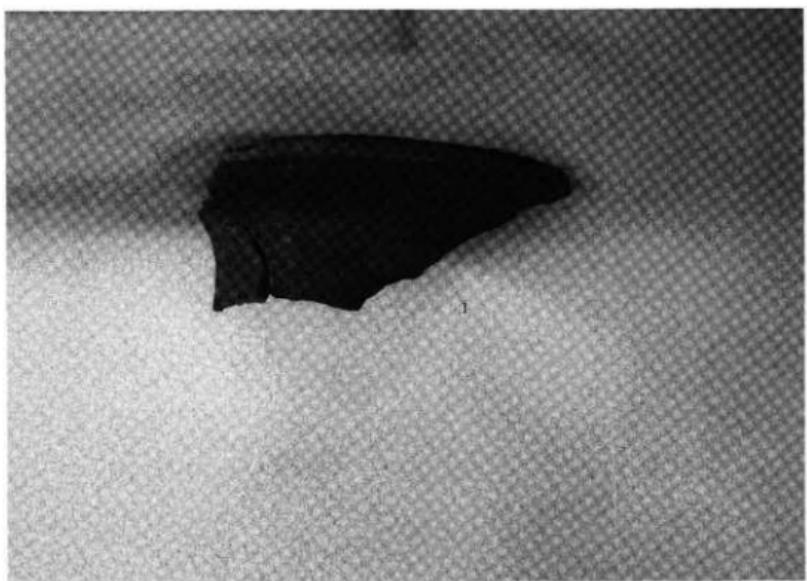


63—133



63—202

圖版 11 水越遺物（63—345）出土遺物



八尾市文化財調査報告20
昭和63年度公共事業

八尾市内遺跡昭和63年度発掘調査報告書Ⅱ

発行日 1989年3月
発行所 八尾市教育委員会
印 刷 近畿印刷センター

